

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成29年8月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500380		
法人名	有限会社 ケア・プラザ		
事業所名	ケア・プラザ なずなの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分482-7		
自己評価作成日	平成29年5月29日	評価結果市町村受理日	平成29年8月21日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成29年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周りは山間部麓にあり、緑が多くのでかで四季折々の風景を見る事が出来る。建物は、民家を改装したもので、スタッフ全員は常に家庭的な雰囲気を守る努力に努めており利用者と一緒にのんびりとした空間を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

民家を再利用したグループホームであり、我が家で生活しているかのような雰囲気で、ゆったりとした時間を送ることができるような住環境を提供している。また、居間から見渡せる庭は、日本庭園風に庭木や岩をバランス良く配置しており、見る者の心が落ち着くよう、きれいに手入れが行き届いている。利用者は、天気の良い日には庭に出て草引きをするなど、庭も生活空間のひとつとしてうまく利用している。

現在、利用者数は1ユニット5名と極めて少人数の受け入れをしており、職員一人ひとりが全利用者に関わり、大変アットホームな運営を行っている。

事業所は「1. 付き添い寄り添い見守るケア。2. 出来ないことはお手伝い。出来ることを見出すケア。3. 言葉使いは尊厳と意をこめて。やさしくゆっくり。4. 好みの献立を、温かいものは温かく。冷たいものは冷たく。5. 散歩・買い物の励行。」の5項目からなる施設理念を作っており、職員は毎月、理念の実践のでき具合を各項目ごとに自己評価し、管理者に提出している。管理者は提出された自己評価に基づいて職員に助言をし、より質の高いサービスに向けて取り組んでいる。

食事は、食材を主に生活協同組合でまとめて購入し、その日の調理担当職員が、在庫食材や利用者の希望や好み等からその日の献立を作成しており、少人数の事業所ならではの、より家庭的な対応を行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を食堂に掲示しており、朝礼時に唱和している。	毎朝礼時の唱和で理念の意識付けを行なっている他、新人への理念の理解を促すための研修を実施している。また、毎月職員は、5項目からなる理念の各項目が実践できているか否かを自己評価しており、管理者は、実践状況を確認し、助言している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、近隣の方々との交流があり、理解を得ている。	自治会に加入し、日頃から会合に参加したり回覧板の受け渡し等を行なっている。年1回の清掃活動に職員が参加している。利用者は散歩の途中で地域の人たちと挨拶を交わしたり、地域のだんじり祭の見学や楠会館でのフリーマーケット（年2回）に職員と一緒に出かけ、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に年数回参加。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を収集しサービスの向上や地域の取り組みに参加している。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。近隣住民、民生委員、村役場の担当者らが参加しているが、家族の参加はない。利用状況や事業所行事の報告を中心に話し合っている。参加者からは防災面や地域の行事、事業所への助言など活発な話し合いが行なわれている。職員には議事録を回覧したり、ミーティング等で報告するなど、意見や要望等を運営面に反映できるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設の状況を常に把握してもらえる様に連絡を密にしている。	事業所の利用状況を村役場の担当者へ頻りに連絡している。担当者からも利用に関する助言や相談があり、日頃から協力関係の構築を図っている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>原則としては身体拘束は行っていないが、やむを得ない時にのみ家族と十分に話し合い同意の上で身体拘束を行う時もある。</p>	<p>身体拘束に関する研修を年に1回実施している。日々の支援を通して、身体拘束が疑われるケースがあった場合はその都度、管理者や職員間で注意をする関係を築いている。日中、玄関扉は施錠しておらず、特に帰宅願望等ある利用者がある場合は職員と一緒に出掛ける体制をとっている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の定義について各職員間で話し合う関係が築けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月一回の研修に於いて年に一度はテーマとして取り上げている。現在2名の利用者様が成年後見を利用している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に必要事項を重要事項説明書や誓約書に明記し十分納得していただける様努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活記録や状況の変化ノートに利用者の不満などを記録し職員に伝えている。</p>	<p>家族からの意見や要望については家族の来所の際に対応した職員が直接、聴き取っている。その内容によって申し送りノートや利用者ごとの状況の変化ノートに記録したり、またミーティング時に話し合い、職員間での情報の共有と運営面への反映を図っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日頃より管理者がパイプ役となり運営者に伝えている。</p>	<p>日頃から職員が意見を言える雰囲気作りに努めており、日頃から管理者が声を掛けながら意見を聴き取る取り組みを行なっている。また月1回のミーティングも代表者及び管理者で職員の意見を聴く場と捉え、積極的に聴き取りを行なっている。朝食のメニューや果物を缶詰に切り替えるなど職員からの意見が運営に反映した事例は多い。</p>	

12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務状況を職員全体で共有し意見調整をしており常に管理者、代表者は把握している。また、働きやすい職場をを目指し現場の意見を尊重している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、各テーマに沿ったグループホーム内での研修を行っている。外部研修に関しても、目標を設けて積極的に参加している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>南河内の各施設、病院には、管理者がコンスタントに訪問しネットワーク作りをしているが、一般職員については時間的な問題もあり、あまり交流できていない。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者が不安なく施設生活に溶け込んで行けるように努め、要望に応じて体験入所も受け付けている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所間もない頃には、頻繁に面会に来ていただく様をお願いし、その都度日々の変化を報告し利用者～家族間の交流の期間を設けている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「その時」必要としている状況の観察と把握をし、柔軟に対応できるように心掛け、必要に応じて他の介護サービスを紹介できる様に他施設とも連携を取り合っている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、昔の知恵などを教えて頂くこともあり、喜怒哀楽を共にし、互いに支えあっている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会、施設内新聞等で利用者の日々の暮らしをお知らせしている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	忘れかけた記憶を引き出す事が出来る様、話題を提供し結びつく様に働きかけている。	事業所に訪ねてきた古くからの友人を受け入れたり、年賀状の発送を手伝ったり、馴染みの人との関係支援を行なっている。以前に通っていた美容院にも同行している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一部の利用者は状況がある程度把握している為、関わりを持ち支え合っており、助言している。コミュニケーションをとることが困難な利用者に対しても声をかけたり、職員が間に入りコミュニケーションがとれえうように心がけている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終身の介護を希望されている方が殆どの為、家族の一人としての位置づけ、大切な関係と」思い接している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思決定の出来ない利用者に対しては職員の都合ではなく、思いやりを持ち一人の人格ある人間として接し、心身の状態に合わせて援助する。	通常は日頃の支援を通して聴き取る一方で聴き取りが困難な場合は、普段の仕草や表情の違いで推測したり、レクリエーションでの会話から聴き出すなど、できる限り利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。聴き取った内容は申し送りノートに記録し、職員間で情報の共有を図ったり、ミーティングで報告し、対応を検討している。	
----	---	--	---	--

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>利用者本人や家族からこれまでの暮らしについて分かる範囲で聞き取り日々の介護に活かしている。また、残っている記憶を忘れない様に誘導し話かけ働きかけている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>機能低下の見られる利用者は居るがその人に合わせ、その人の意見を尊重するよう心掛けている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>その都度、家族や介護職員等と話し合いの場を持ち介護計画の作成に反映させている。また、3ヶ月に一度、介護計画の見直しや再アセスメントを実施している。状態が変化したときにも検討し、随時作成している。</p>	<p>毎月のミーティングで利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、家族の意向や職員の意見を介護計画に反映している。3ヵ月毎にモニタリングを実施しており、適宜介護計画を見直している。心身の状況等に変化があった場合も見直している。家族のカンファレンス参加は難しく、訪問時に思いや要望を聴き取っている。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>スタッフの申し送り帳に日々の様子や変化を記入し月1回のミーティングで、計画作成者と話し合い介護計画の作成、見直しに当たっている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院の支援や利用者が必要な物品などはドライブを兼ねてスーパーまで車で出かけたり、職員が代行して買い揃えたり柔軟に対応している。さらに、近隣の住民が気軽に立ち寄り介護相談などを受けたりできる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者の意向に沿ってその都度、必要に応じて然るべき機関に協力を仰いでいる。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>利用者、家族の希望があればかかりつけ 医での受診の支援は可能ではあるが現在 のところ希望者はない。協力医療機関の 医師が毎月2回・看護師毎週1回往診し ている。利用者の状況は「状況変化の ノート」に記録し、受診結果や薬剤の変 更などの情報を職員が共有している。</p>	<p>かかりつけ医に指定はないが、内科 医は家族等の希望により、現在は全 利用者が協力医療機関を利用してお り、月2回の訪問診療を受けてい る。通院は基本的に家族等が同行し ている。 診察内容等は申し送りやミーティン グ、「医療機関との連携記録」によ り、職員間で情報を共有している。 大きな体調の変化等があった場合 は、家族等へ連絡している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>主治医訪問とは別に看護師の訪問が週1 回あり、看護師と介護職員がお互いに情 報を共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>近隣の医療機関に対し管理者による表敬 訪問を定期的実施し、情報交換をして いる。また利用者が入院した場合、家族 の方の面会以外にも随時職員が面会に行 き、利用者の不安の軽減に努めると共に 病院関係者とも情報交換を密にしてい る。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>退去例として終末期に向けた方針の共有 は家族と話し合いを重ねており、今後も 変わりはない。家族のある方とは全て方 針が共有出来ている。</p>	<p>入居時には方針等を伝えるに留めて おり、実際の重度化にあたり「重度 化した場合における看取り指針」を 基に、家族と話し合い、同意書を交 わしている。利用者や家族等が事業 所で看取りを希望する場合は、主治 医を交えたカンファレンスを開き、 意向に沿って、事業所内で看取りケ アを行なっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員研修などを通じて定期的に知識を確 認し合っている。</p>		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1階、2階に消火器が、2階のベランダには庭に降りる避難用すべり台及びスプリンクラーを設置している。また、電話台の近くに緊急時の通報先、方法などをわかりやすく掲示している。避難訓練も実施している。地域の方々とは日頃から交流がある。	緊急連絡網や災害対策、通報マニュアルは食堂に掲示しており、3日以上の食糧品・水やカセットコンロなどを備蓄している。年2回は消防訓練を実施しており、1回は夜間想定で訓練している。運営推進会議で、近隣の住民と災害時の協力体制について話し合っており、お互いに助け合うことができる関係を構築している。火災以外の防災訓練については行政も積極的でなく、取組めていない。	消防訓練の実施と共に、他の災害対策について防災訓練の実施が望まれる。
----	----	--	--	--	------------------------------------

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に基づいてプライバシーを損ねるような言葉づかいや対応がない様に努めている。また、利用者の記録等の個人情報は決められた場所に適切に保管している。	プライバシーの保護や高齢者の尊厳について社内研修を実施し、職員間でお互いの言動が利用者の人格等を損ねていないか注意し合っている。個人情報を記録した書類は鍵の掛かる管理室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの思い、決定を否定せず本人に応じた返答を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応のスケジュールは決まっているが、スケジュール通りにするのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切にし、自由に過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿ってその都度、必要に応じ近隣の美容室等に出掛けているが、最近は、事業所内でカットしてほしいとの要望が多い。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者それぞれに合った食器、食事形態（米飯、お粥、キザミ、ミキサー）考え、対応している。また、利用者それぞれの出来ること、出来ないことを見出し不十分なところはサポートしている。</p>	<p>食材は主に生活協同組合から購入し、不足分を近隣のスーパーマーケット等で購入している。献立はその日の調理担当職員が在庫食材や利用者の希望などを確認して作成している。お米を磨いだりテーブルを拭いたり、今できる事を職員と一緒にやっている利用者もいる。また、毎月、季節を感じられるように行事食を取り入れて、食事に変化が持てるように工夫している。誕生日会に提供するチラシ寿司は好評である。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>過去の記録を参考にしバランスを考えたメニュー作り、また、お茶やおやつ時間に好みのものを出来る限り出す様にしており、それ以外の時間でも希望があれば応じる様になっている。特に水分摂取には、気を付けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、利用者一人ひとりにあった口腔ケアの方法を歯科衛生士と相談し、実践している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定時のトイレ誘導以外にも、利用者の訴えや、ちょっとした仕草を察知しトイレ誘導を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄ができる様に、利用者一人ひとりの排泄パターンや仕草を把握し、トイレ誘導をしている。夜間も睡眠の状態や排泄の状況に応じて、トイレ誘導の声掛けを行っている。牛乳やヨーグルト製品の摂取や、多くの水分摂取を促すなど便秘が予防できるように取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>主治医の指示の元で便薬の調整を行っているが、便薬だけに頼るのではなく消化の良い食事の提供、散歩などの運動を促しているなどを行っている。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>職員二人が介助して入浴する利用者もあり、入浴の曜日や時間帯は決めているが出来る限り利用者の希望に応じている。体調が悪ければ他の日に代替え出来るように調整している。</p>	<p>入浴は個浴で、週2回の午後からを基本としている。利用者から希望があればシャワー浴を追加するなど、対応を心掛けている。入浴を拒否する利用者には、職員の声掛けの仕方や時間や曜日を変更するなど、無理強いすることなく入浴ができるように支援している。利用者の希望があれば、必ず同性介助している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を大切にし、自由に過ごして頂ける様に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>主治医や薬剤師の指導のもと、職員同士服薬の情報について共有しあい、不明な点は随時主治医や薬剤師、看護師に連絡を取っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴を参考にし、事業所内での役割、散歩、お手伝いなど、利用者一人ひとりの意思を尊重し支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>当施設が山間部にあり、散歩道はのどかな山道を歩いている。介護度の重い利用者も居られるので身体面、体調面を十分に考慮し負担にならない様に配慮している。</p>	<p>遠足は年1～2回、車でワールド牧場、花の文化園、バーベキューなどへ出掛けている。天候の良い日には、散歩コースになっている山道を職員と一緒に散歩している。散歩道は車通りも少なく、近隣の住民と挨拶を交わしたり季節の草花を観ながら、車いすを利用している利用者も、安心して散歩ができる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる利用者の方は、現在おられず家族様などに連絡し必要に応じて事業所で立替。買物の時は職員が付き添い使える様にしている。</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者からの訴えがある場合、家族と電話で連絡を取り継ぎ電話で話をして頂くように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>当施設は山間部にありのどかな雰囲気、リビングからは庭が見られる。日中はリビングに日差しがかけ心地よく過ごされている。</p>	<p>民家を再利用した事業所は、自宅さながらの温かみと落ち着きがあり、利用者一人ひとりがテレビを観たり、庭を眺めたりと自由に好みの場所で過ごすことができる。季節感が持てる様に、利用者と職員の共同作品は、共用の居間や食堂に掲示している。居間からは、手入れの行き届いた日本庭園風のきれいな庭が見渡せ、四季の移ろいも感じることができる。庭で草引きなどの作業をする利用者もいる。事業所には毎年ツバメがやってきて、元気に巣立っていく様子を見ることもできる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>旧家を利用している事も有り独りになれる空間作りは困難である。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族には利用者本人が使い慣れた物や親しみのある物を持ち込んで頂ける様に説明している。また、レクリエーションなどで造った作品を居室に飾られる利用者もおられる。</p>	<p>持ち込みの制限はしていないが、居室にはベッド・テレビ・寝具・タンスなど必要な備え付けがあり、多くの利用者は衣類・アルバム・小テーブルを持ち込んでいる。日中は、共用の居間や食堂で職員等と話したりテレビを観て過ごすことが多く、居室には就寝時までほとんど戻ることがない。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その都度、利用者の状態に応じて自助具や福祉用具の使用を検討し、出来る事は出来る限りご自身の手で行って頂ける様支援している。失敗や混乱されている時はさりげなくサポートし、自尊心を損なわない様に努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない